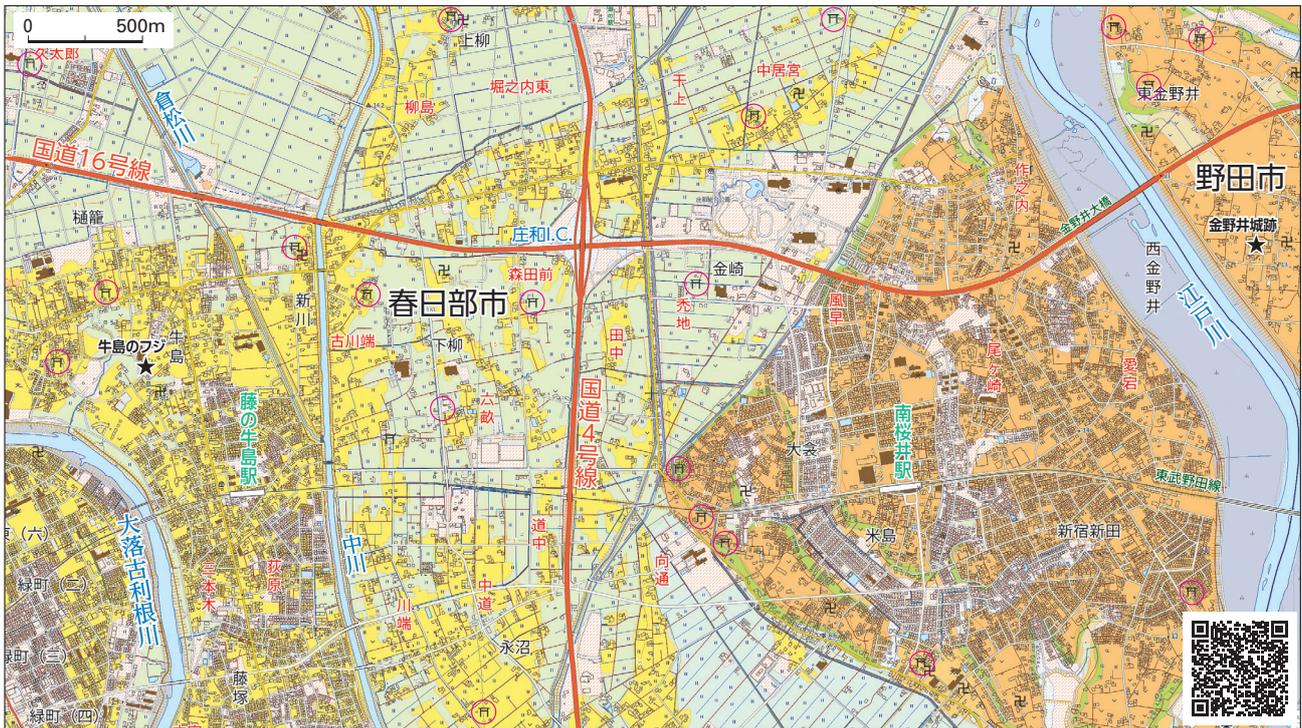


日本縦断 地理院地図の旅

第2回「歴史を刻んだ河川地形～埼玉県春日部市」



地図1 埼玉県春日部市、藤の牛島駅・南桜井駅周辺の土地条件図（「地理院地図 VECTOR」をもとに2019年9月27日作成）
神社を丸で囲い、通称地名（小字）を赤色で示した。通常の地理院地図は、2019年9月より通称地名は灰色で示されるようになった。

1. 「ベクトル版地理院地図」の誕生

2019年7月、自分で地図をデザインできる地図サイト「地理院地図 VECTOR」の試験公開が始まった。「地理院地図 VECTOR」を用いると、道路、鉄道路線、建物などの色や線の太さ、文字の色や大きさ、地図記号の大きさを自由に改変し、オリジナルの地図を作ることができる。等高線だけの地図、道路だけの地図、白地図など、用途に応じて様々な地図を作ることができるので、地理学習・防災学習などに活用することが期待されている。

2. 地理院地図に土地条件図を重ねる

河川地形のなかでも、自然堤防はわずかな標高差しかないため、地形図から等高線や土地利用を読み取ることは難しい場合がある。特に、開発が進んだ都市域では、住宅地が形成されたり、地形が改変されたりしているため、地形図から元の自然堤防を「発見」するには慣れが必要である。そこで、地理院地図に土地条件図を重ねてみる。土地条件図は平野部を中心に整備されており、**地図1**の地域では、自然堤防（黄）、谷底平野・氾濫平野（薄緑）、山地斜面等（緑）、段丘（橙）、人工地形（白に近い色）などを読み取ることができる。こうした土地条件と、建物や道路の分布、地名との関係などを考察することにより、その土地の成り立ちを理解することができる。

3. 台地と低地に残る多様な地形

地図1の地域は台地と低地の境界にあたり、東武野田線の、藤の牛島駅は自然堤防上、南桜井駅は台地（金杉台地）上にある。台地上は金野井郷とよばれ、鎌倉幕府の御家人・野本家定（野本将監）が鎌倉時代に築いたといわれる金野井城の掘割や土塁が今も残っている。1641年（寛永18年）に台地を開削して作られた江戸川により金野井郷は分断されたが、現在の野田市側には東金野井、春日部市側には西金野井という地名が残っている。南桜井駅周辺にあった谷は盛り土され、住宅地になった。

金杉台地の西側には、小河川や水路が錯綜する低地があり、大落古利根川が利根川の本流であった頃に形成された自然堤防上に集落が分布している。現在の神社の分布からも、自然堤防と集落の関係を読み取ることができる。ただし、頻繁な流路変更などの影響で自然堤防は小規模なものが分散しており、それぞれに小字地名が残っている。この地域では、微高地を示す「柳島」「牛島」などの地名とともに、河川の流路変更を伺わせる「古川端」「川端」の地名、水田地帯に残る「干上」「禿地」といった荒地を連想させる地名などが読み取れる。このように、地形図や土地条件図から読み取れる地形や土地利用、地名には、地域の歴史が積み重なっている。

※この記事に関連した地理院地図用のファイルは、弊社ウェブサイトの地理月報ページに掲載します。